

2024年（令和六年） 10月18日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

当週(10月10日～16日)の国際石油市場は、イスラエルの対イラン報復攻撃の緊張が高まり、ハリケーン被害の中、始まったが、週末からは、緊張が緩和、特に週明け報復攻撃の標的から石油施設・核施設が除外されたとの報道で軟化した。さらに、OPEC、IEAは相次いで、今年と来年の需要見通しを下方修正、値下がり加速、後半は値下がりが続いた。

NYのWTI原油先物市場は、10日、反発の75.85ドルで始まったが、週末11日からは4営業日続落、16日は70.39ドルと、70ドル割れ目前で終わった。

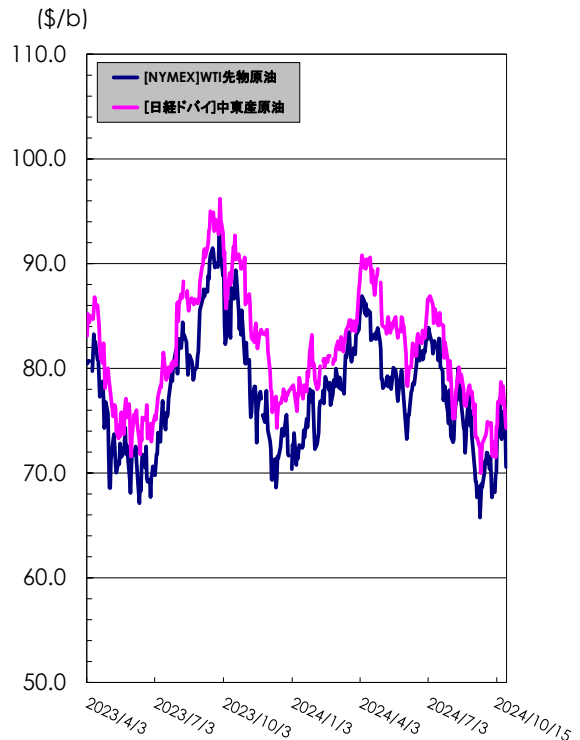
また、中東産パイ原油/東京市場(12月渡し)も、前週(10月3日～9日)は74.40～78.70ドルの範囲で推移したが、当週は、10月10日76.60ドル、11日78.30ドル、14日休日、15日74.30ドル、16日74.20ドル。

対ドル為替レート(TTM)は前週(10月3日～9日)146.72～148.47円の範囲で推移したが、当週は、10月10日149.41円、11日148.62円、14日休日、15日149.67円、16日149.29円となった。

財務省が10月17日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月下旬の原油輸入平均CIF価格73,233円で前旬比1,904円安、ドル建て81.69ドルで前旬比0.88ドル安、為替レートは1ドル/142.53円。9月月間の原油輸入平均CIF価格75,139円で前旬比7,374円安、ドル建て82.77ドルで前旬比4.10ドル安、為替レートは1ドル/144.32円。

そのような中で、10月15日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油も0.1円の値下がり、灯油は同横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.9円となった。10月17日～23日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は18.3円(補助金がない場合の次週予想価格193.1円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は8.1円)と、4.0円の増額となった。

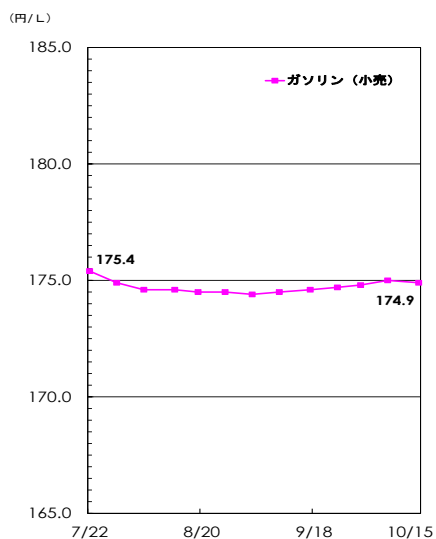
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/6～10/12	2,648 ▲153	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.5 ▲4.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/12	10,819 ▼-679	▲ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	10/15	74.30 ▼-2.70	▼-17.3
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/14	73.83 ▼-3.31	▼-12.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	81.69 ▼-0.88	▼-4.87
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	73,233 ▼-1,904	▼-6,521
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	142.53 ▲2.15	▲3.95
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/15	150.67 ▼-1.20	▼-0.07



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/6 ~ 10/12	808 ▲ 154	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	654 ▼ -28	▲ -	
	輸出	"	56 ▲ 31	▼ -	
	在庫	10/12	1,613 ▲ 98	▼ -	
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/8 ~ 10/14	81.0 ➡ 0.0	▲ 4.2	
		(TOCOM/中部)	10/11	80.0 ➡ 0.0	▲ 1.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/15	174.9 ▼ -0.1	▲ 0.2

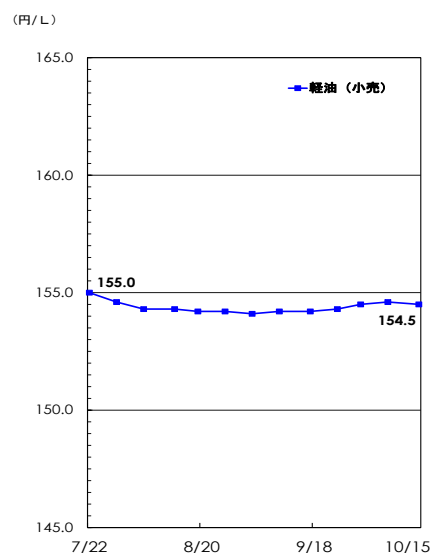
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

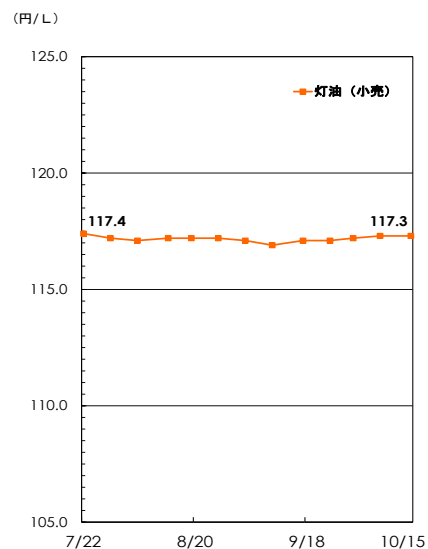
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/6 ~ 10/12	672 ▲ 48	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	610 ▲ 37	▲ -	
	輸出	"	89 ▲ 18	▼ -	
	在庫	10/12	1,407 ▼ -26	▲ -	
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/8 ~ 10/14	82.8 ▼ -0.1	▲ 5.5	
		(TOCOM/中部)	10/11	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/15	154.5 ▼ -0.1	▲ 0.1

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/6 ~ 10/12	217 ▲ 20	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	126 ▲ 58	▲ -	
	輸出	"	31 ▼ -14	▼ -	
	在庫	10/12	2,587 ▲ 60	▼ -	
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/8 ~ 10/14	81.0 ➡ 0.0	▲ 5.2	
		(TOCOM/中部)	10/11	81.0 ➡ 0.0	▲ 3.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/15	117.3 ➡ 0.0	▼ -0.1



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(10/3~10/9)のNYMEX・WTI先物市場は73.24~77.14ドルの範囲で推移した。

当週、10月10日は、イスラエルによるイランの石油関連施設への報復攻撃の懸念が高まったこと、また、フロリダ州に上陸したハリケーン「ミルトン」の被害で、石油供給施設に被害が発生、仮需も見られることから、反発した。11物終値は前日比2.61ドル高の75.85ドル。

週末11日は、前日の高値を受け利益確定売りや週末のポジション調整で反落した。11物終値は同0.29ドル安の75.56ドル。

週明け14日は、報復攻撃の標的から石油施設・核施設を除外したとの一部報道があり、イスラエル・イラン間の緊張は後退、また、この日発表のOPEC月報は2024年の世界需要見通しを10万BD下方修正し190万BDと、中国の経済減速から、続落した。さらに、中国政府は、この日、銀行への資本注入策を発表したが、景気回復には不十分との受け止めが多

かった11物終値は同1.73ドル安の73.83ドル。

15日は、前日に続き、中東地域の緊張は緩和、また、この日発表のIEA月報でも中国の景気減速を理由に24年・25年の世界需要見通しを下方修正、需給緩和懸念が広がり、3営業日続落した11物終値は同3.25ドル安の70.58ドル。

16日は、イラン・イスラエルの緊張が後退する中、相次ぐ需要見通しの下方修正から、4営業日続落し、一時は60ドル台を割った。14日の休日(コロンブスデー)の関係で、一日遅れの17日発表の米国原油在庫の積み増し予想も値下がり要因。11物終値は同0.19ドル安の70.39ドル。

2 海外/米国石油市場

10月11日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、17日の発表予定。

EIAによると10月14日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.5セント高の1ガロン3.171ドル(125.2円/ℓ)と3週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.7セント高の1ガロン3.631ドル(143.3円/ℓ)と4週連続の値上がり。

ペーカー・ヒューズ社によると、10月11日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基増の481基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年10月6日~10月12日に休止したトッパー能力は42.6万バレル/日で、前週に対して0.8万バレル/日増加した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は264.8万klと、前週に比べ15.3万kl増加。前年に対しては2.4万klの減少。トッパー稼働率は76.5%と前週に対して4.4ポイントの増加、前年に対しては4.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてC重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/23.5%増、ジェット/19.2%増、灯油/10.3%増、軽油/7.6%増、A重油/6.1%増、C重油/24.5%減。今週のC重油の輸入は1.1万kl(前週比1.1万kl増)。軽油の輸出は8.9万kl(前週比1.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではA重油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は65.4万kl(対前週4.1%減)と2週連続で減少した。ジェット6.8万kl(対前週17.4%減)、灯油12.6万kl(対前週86.2%増)、軽油61.0万kl(対前週6.5%増)、A重油15.4万kl(対前週15.6%減)、C重油13.7万kl(対前週10.5%減)。

(単位:千L)

	今週 (10/6 ~ 10/12)	前週 (9/29 ~ 10/5)	前週比
ガソリン	654	682	▼ -28 (-4%)
ジェット燃料	68	83	▼ -15 (-18%)
灯油	126	68	▲ 58 (85%)
軽油	610	573	▲ 37 (6%)
A重油	154	182	▼ -28 (-15%)
C重油	137	153	▼ -16 (-10%)
合計	1,749	1,741	▲ 8 (0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

10月12日時点の在庫は、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは161.3万kl、前週差9.8万kl増。前年に対しては11.5万kl少ない。

灯油は258.7万kl、前週差6.0万kl増。前年に対しては36.1万kl少ない。

軽油は140.7万kl、前週差2.6万kl減。前年に対しては2.4万kl多い。

A重油は71.3万kl、前週差3.4万kl増。前年に対しては6.8万kl少ない。

C重油は165.7万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては30.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (10/12)	前週 (10/5)	前週比
ガソリン	1,613	1,515	▲ 98 (6%)
ジェット燃料	878	873	▲ 5 (1%)
灯油	2,587	2,527	▲ 60 (2%)
軽油	1,407	1,433	▼ -26 (-2%)
A重油	713	679	▲ 34 (5%)
C重油	1,657	1,632	▲ 25 (2%)
合計	8,855	8,659	▲ 196 (2.3%)

5 国内/元売会社製品卸価格

10月8日～14日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られるが、補助金の増額がこれを上回り、10/17～10/23の実質卸価格は値下がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

10月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の174.9円、軽油も同0.1円安の154.5円、灯油は18%ベースで同横ばいの2,112円(1%ベースでも同横ばいの117.3円)。ガソリンは6週ぶりの値下がり、軽油も6週ぶりの値下がり、灯油は5週ぶりに値上がり止まった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり19府県、横ばいは4県、値下がり24都道府県だった。全国最安値は岩手県の168.2円、その次は愛知県の168.8円であった。他方、最高値は長野県の184.0円。最も値上がりしたのは沖縄県と福岡県(同1.0円高)、最も値下がりしたのは和歌山県(同1.6円安)だった。

次回調査時(10/21)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/15)	前週 (10/7)	前週比	直近高値
レギュラー	174.9	175.0	▼ -0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.3	117.3	▶ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.5	154.6	▼ -0.1	08/8/4 167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第28号) の公表は、10/25 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。